

# 加美町地域エネルギー通信

第4号

発行日：平成25年3月21日

編集者：循環社会研究所

安田容子（地域調査員）

発行者：協働のまちづくり推進課

加美町地域エネルギー活用調査・企画事業

## 加美町の自然エネルギー利用その② 太陽光と水

### 自然エネルギー利用者の声

昨年末に加美町の自然エネルギーを利用する人たちに話を聞きました。今回は、その中から、太陽光発電と水の利用について取り上げます。太陽光の利用については、城生の伊藤さんにお話をうかがいました。水の利用については、中新田岡町の尾形桂さんから井戸水のお話を、上多田川水神地区の尾形勝さんからは湧き水のお話をうかがいました。

### 太陽光

太陽光を十分に取り入れるには、5月・6月・9月・10月が適しています。真夏のざらざらした光は、気温が上がるとパネルの効率が下がるので、発電量が少し落ちるそうです。太陽光パネルを利用していると、毎日の発電量や使用量を気にするようになり、節電や電気の使用に対する意識が変わったそうです。

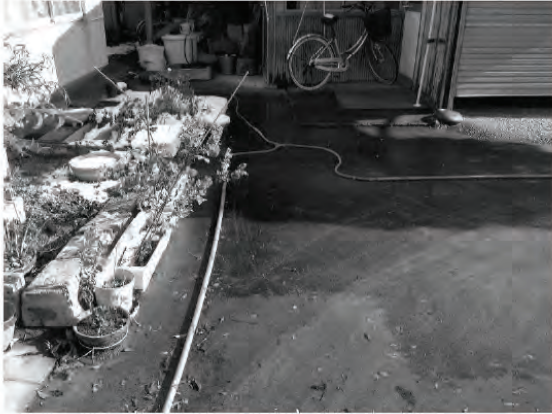
一番の問題点は、冬にありました。冬場は、昼間太陽が照っていても、積もった雪がパネルに残ってしまうので、融雪機能がないのが残念とのことでした。また、蓄電機能があれば、よりいっそう便利になるようでした。震災の時は、売電分を自宅利用に切り替えることができたため、洗い物のお湯やご飯を炊くことに使えたそうです。もしものときに自宅利用に切り替えることができるのは便利で、また安心だと思いました。



### 水

加美町は井戸や湧き水があり、今でも使われています。また、鳴瀬川や多田川、さらに水量の豊富な用水路が流れている、水の豊富な地域です。地域の水利用には、井戸水の利用や用水路の利用など、様々なものがあります。今回は中新田岡町と上多田川水神地区の水利用についてとりあげますが、加美町にはほかにも家に水を引き入れているところや、井戸をもっているところ、用水路の利用など、まだまだたくさんの水利用があります。

（裏面に続きます）



### 岡町の井戸（尾形桂さん）

お邪魔したときは、写真のように、小さい穴を開けたパイプを玄関先において融雪していました。たくさんの小さい穴から井戸水が少しずつ流れて雪を溶かしていました。井戸水は水温がいつでも13度なので、水を撒くだけで雪が溶けていきます。パイプを動かすだけで、玄関先がいつでも凍り付かない。気温が零下の時は湯気ができるほどだそうです。

### 水神地区のわき水（尾形勝さん）

**いいことづくめの湧き水：** 尾形さんのお宅では、湧き水を利用しています。地名が「水神」であることも、この地区に水が豊かであることを示していると思います。湧き水があることはいいことづくめで、悪いことや面倒なことは一つもないそうです。かつては田んぼに流してもいたそうです。その時は、他の地区は水がなくとも、水神地区の田んぼはいつも水があり、また、田んぼに全て使われることはなく、家で使う水も十分にあったそうです。多田川から取水した用水路が涸れても、水神の湧き水は涸れることはなかったため、水神地区の田んぼだけ青々としていたこともあったそうです。本当に水神の通りだと思いました。これからは、湧き水を休耕田に流して池にして、鮎や鯉の養殖をすることもできるなどの可能性もあるそうです。



↑湧き水にはゴミが入らないように上屋がかけられ、中から豊富に水が湧き出ている。

**心配事の一つ：** 2007年の内陸地震の時には水量が減ったそうです。東日本大震災のときは水量が替わったり水が濁ったりしたことはないそうですが、地震による影響が心配とのことでした。何かが影響して水が涸れてしまうことが一番の心配事です。また、森と地下水とつながっていることも考えなくてはいけないと話して頂きました。

今回お話を頂いたところ以外にも、水利用を行っているところや、湧き水などがたくさんあります。水道水とはちがって、夏冷たく、冬暖かい井戸水や湧き水は、水としての利用だけでなく、最近の技術により、冷暖房設備にもつかうことができます。 (つづく)

**問い合わせ先：**

**加美町役場 協働のまちづくり推進課 (TEL 63-3215, FAX 63-2037)**